

第4章 現状を踏まえた課題

現状

1 止まらない利用者の減少

○管内の人口は、今後減少傾向が加速することが見込まれるため、対策を講じなければ利用者の更なる減少が懸念される。

<人口減少>

- ・過去10年間で11%減少 【H22】 427,807人→【R2】 380,158人
- ・今後10年間で15%減少する見込み 【R2】 380,158人→【R12】 321,565人

○特に安定した利用が期待できる高校等への通学者の減少傾向が著しい。
生徒数は減っているものの、通学のための交通機関は必要。

<通学者の減少>

- ・15歳未満の人口は、過去10年間で25%減少 【H22】 49,255人→【R2】 37,125人
- ・高等学校生徒数は、過去4年間で9%減少 【H30】 8,960人→【R3】 8,135人
- ・渡島公立高校のバス・鉄道通学生徒数の割合 【H30】 31.9%→【R3】 35.2%

2 路線収支の悪化

○利用者の減少に伴い、国・道の補助要件を下回る路線が出てくるなど、路線収支の悪化や、欠損補助に係る行政負担の増加により、更なる路線の廃止が懸念される。

<路線の休廃止が進行>

- 【R2.10廃止】バス 檜山海岸線①、【R3.10廃止】バス 江差八雲線、
- 【R4.4廃止】バス 下海岸線③

3 北海道新幹線札幌開業による交通体系再構築の必要性

○2030年に予定している札幌開業により並行在来線となる函館-新函館北斗間、函館-長万部間の交通を維持する必要がある。

課題

地域に必要な路線の確保と維持

利用者の維持や、利用実態に即した適正な運行体制の構築により、路線収支の悪化を防ぎ、生活に必要な移動手段を確保し、また周遊促進にも資する形で、路線を維持していく必要がある。